

平成 28 年度 事業計画および予算について

I 事業概要

1. 教育研究事業

大学

- ・ 安全で充実した持続可能な教育環境の整備を目指して推進されてきたキャンパス整備計画ですが、平成 27 年度から 2 年間にわたって、図書館、楽器学資料館、音楽研究所が設置されている 4 号館の耐震改修を行っています。図書館については、ラーニングコモンズを備えるなど大学図書館としての教育的機能の強化を行い、楽器学資料館もこれまで以上の展示スペースを確保できるようになり、今年度末までには完成します。
- ・ 教育改革の第 2 ステージとして行われた、カリキュラム改編も 3 年目を迎え、教養科目、音楽文化教育学科の学科共通科目等、多くの新設科目の開設とともに、コミュニティ音楽コース、鍵盤楽器技術コースなど、新たなコースもスタートします。
- ・ 本学の教育内容をより広く周知し、一層の受験生を獲得すべく、広報の充実を図ります。新たに広報センターを立ち上げ、ホームページのリニューアルなどに取り組みます。
- ・ 従来から行っている進学ガイダンス、オープンキャンパス、授業公開、受験準備講習会、ワークショップなどを、中学生・高校生、音楽大学に興味のある方に、気軽に本学を体験していただくための一連のプログラム「くにたちプレカレッジ」と位置づけ、内容の充実を図ります。ワークショップはこれまで、吹奏楽やオーケストラで開催してきましたが、今年度より、声楽とピアノでも新たな企画を計画しています。
- ・ 入試では、指定校推薦入試の見直しを行うほか、3 年次への編入学制度を開始します。
- ・ ライブ・キャンパス・システムの稼働により、履修登録、時間割、成績評価を学生自身で確認できるようになったほか、GPA 制度の導入を履修指導に生かして、より一層の学生サービスを展開します。
- ・ キャリアカウンセラーによるキャリア・就職支援のほか、臨床心理士や精神科医によるカウンセリング、学習支援センターでの教員による面談など、学生相談のさまざまな場を引き続き提供していきます。今年度からは、学科系の教員によるオフィス・アワーも制度化されます。
- ・ 障害のある学生への支援に関する方針を定め、適切な修学支援を行います。
- ・ 演奏教育の成果として実施する定期演奏会に、オーケストラでは尾高忠明先生、ブラスオルケスターでは F・ブーランジェ先生をお迎えし、客演指揮をお願いします。

- ・ 創立 90 周年記念事業は、今年が最後の年となりますが、6月に準・メルクル指揮、本学オーケストラ・合唱団による創立 90 周年記念「特別記念演奏会」で、ベートーヴェン／交響曲第 9 番「合唱付」を演奏します。また、固有の様々な音楽文化をもち、西洋音楽の教育・研究を推進するという共通課題をもったアジア諸国の音楽系大学との教育・研究交流を一層推進するために、11月に「アジア音楽大学学長会議」を開催します。
- ・ 音楽研究所では、昨年度より「20 世紀前半アメリカ音楽研究部門（通称 ガーシュイン・プロジェクト）」が立ち上がり、新たな活動を始めました。

大学院

- ・ 例年高い評価を受けている大学院オペラは、今年度、秋山和慶氏を指揮者に迎えて上演に向け取り組めます。
- ・ 修士課程は、カリキュラムの見直しと Semester 制の導入が完成を迎え、留学生の受け入れと送り出しにも対応しやすくなりました。
- ・ 博士後期課程は、毎年着実に学位取得者を輩出していますが、より一層指導の充実を図ります。

附属各校共通

「各附属校間の連携を密にした一貫校としての取組を推進」

教育面では中高から幼児教育進学希望者への保育体験を幼稚園で経験させる一方、幼稚園では課外レッスンを開校し、その指導に中高、小学校のレッスン講師があたるといった活動、また、広報活動においても各校連携してより効果的な活動を推進していく等、各附属校が相互に連携協力した活動を強化していきます。

附属中学校、高等学校

「生徒一人ひとりのニーズに即した授業を導入」

生徒の興味関心にこたえるべく、自由選択科目として新たに「独語」を設置します。また音楽科には将来音楽人として必要なマナーを習得させるべくマナー教育「礼法」の授業を設置します。

音楽科のソルフェージュ授業は到達度別の少数人制で行い、生徒のレベルに見合った教育を行っていきます。更には普通科の音大志望者にもソルフェージュや声楽基礎といった授業が受講できるようにします。

「演奏会の開催」

生徒の成果発表の場となる演奏会として、招待演奏会、くにたち音楽会、ソリステンコンサート、オーケストラ定期演奏会、トワイライトコンサート、新入生歓迎演奏会、卒業演奏会を開催していきます。

「海外留学への対応」

海外留学希望者への対応としてエルウッド高校（オーストラリア）、ベルリンカニジウス高校（ドイツ）、リンツ音楽高校（オーストリア）との留学協定を締結します。

「国際交流の推進」

7月に台湾・台湾市立大成国中学音楽科からソリストを招聘して本校オーケストラとの共演をします。

「広報活動の推進」

従来行っている KUNION 講座を改編して新たな企画で早期入学的要素を導入し、志望者の早期取り込みを進めていきます。

附属小学校

「教育内容の充実」

「豊かな感性を育む」ための音楽、造形等の授業を継続すると共に、英語教育においても授業方法やカリキュラムの改善を図り、一層充実した内容とします。

学習面では児童の思考力、判断力、表現力を育成するとともに児童の個性や能力に応じた指導を進め、自ら考える力と学ぶ意欲を高めるよう基礎基本の定着を図っていきます。

「生活指導の徹底」

教師と子ども、子ども同士の人間的な触れあいを大切にして思いやりの心を育て、自分も相手も同じように大切にできる子どもを育成していきます。

また、児童の安全については登下校中の安全と公共交通機関でのマナーについて教師が通学路の歩き方等の指導を継続的に行っていきます。

「志望者増へ向けた広報活動への取組」

ホームページ、スクールガイド、学校紹介用 DVD をより効果的な内容に刷新します。また近郊幼児教室、幼児教室対象説明会、附属幼稚園保護者説明会、土曜見学会（ミニ講演会）、日曜見学会（サマーコンサート）、学校説明会（6・7・8月）等への広報活動を積極的に展開していきます。

附属幼稚園

「総合リズム教育に基づいた保育内容の充実」

初代園長小林宗作が唱えた「総合リズム教育」を教育理念とし、園児が心も身体もリズムカルに動いて様々な豊かな体験ができるよう職員の資質の向上と協力体制を持って保育の充実を図っていきます。

「保育後の園庭解放」

地域の子供たちに安全に遊べる場所を提供するため保育後午後3時まで園庭を引き続き開放していきます。

「子育て支援事業」

子育てをしている地域の方々に対して、よりよい子育て環境づくりの一助となるよう園庭解放、親子リトミック、親子制作遊び、夏冬の親子コンサート等を年20回程度開催してまいります。

「延長保育の実施」

保護者のニーズに応えるため通常保育終了後の延長保育を実施します。来年度からの本格実施に向け試行中であります。

「課外レッスンの開始」

保育終了後にピアノとバイオリンのレッスンを在園児対象に5月から実施します。レッスン講師は中高、小学校の講師を招聘して行い、すでに園児の半数が希望しております。

「園児と本学幼児教育専攻学生、附属高校生との交流の推進」

本学幼児教育学生の教育研究や研鑽の場、また附属高校生の園児との交流の場として受け入れを行ってまいります。大学生にとっては子ども理解の深化や実践力を培う場となり、高校生には子どもたちとの交流により将来に対する夢や希望を持ってもらうことを期待しています。

「広報活動の充実」

ホームページのリニューアルを始めとして、附属各校との連携により、効果的な広報活動を展開してまいります。

2. 施設の整備

- ・大学4号館のリニューアル工事は2年目を迎えます。平成29年4月の全館リニューアルオープンを目指しています。
- ・大学2号館の空調設備を更新します。また、建設から30年経過した講堂の受変電設備を更新

します。

- ・附属中高1号館の廊下の壁や床、天井の他、2号館トイレを全面的にリニューアルします。

3. 財務基盤の充実と経営管理体制の強化

4号館リニューアル工事や1号館取壊しが完了する平成30年度までは、大口の施設工事支出が続きます。このような状況下で経常収支の安定化を目指すため、納付金収入はもとより、寄付金や補助金等の収入拡大に関しても施策を強化します。

・寄付金事業の推進

大学4号館リニューアル事業に伴う募金事業は2年目を迎え、奨学寄付金と共に継続して展開します。

・補助金の活用

4号館耐震工事に関する補助金を有効活用します。

・収益事業部門からの繰入れ

北ビル用地の活用など、教育活動以外の収入確保を進めます。

4. 法人全体

安全で充実した教育環境を整備するため、教育施設の整備事業を計画的に進めていますが、東京オリンピック需要に伴う建設資材の高騰などで、整備コストの増加傾向が見込まれます。学校法人を取巻く環境は依然として厳しく、入学者を確保するための施策を確実に遂行すると共に、人件費や物件費の有効度を高めるため、これまで以上の工夫に努める必要があります。

II 予算

1. 事業活動収支予算

事業活動収支予算は経常収支と特別収支に大別され、経常収支の内訳は教育活動収支と教育活動外収支に区分されています。事業活動収支は、学校法人の本業となる教育事業に関わる経常的な収支と、臨時的な収支に分かれている点が特徴と言えます。尚、金額は十万円単位を四捨五入して百万円単位で表示します。

(1) 教育活動収支

(収入内訳)

納付金収入40億8,900万円は、前年予算額に比べ2億6,400万円の減少が見込まれます。

学生生徒の在籍数は減少しますが、今後の新入生については増加を目指しています。経常費補助金については、学生生徒数の減少に伴う減額が見込まれます。また、雑収入は定年退職者の増加に伴って退職交付金が増え、前年予算額に比べて3,700万円増額します。

(支出内訳)

経常支出の多くを占める人件費は、前年予算額と比べて1億3,400万円減少します。教職員人件費は32億3,800万円で、連続して前年度より減少しています。また、教育研究経費はこれまで進めた施設改修事業に伴って減価償却額が増加し、前年予算額より6,200万円増額します。

以上の結果から、教育活動収支差額は4億5,200万円の支出超過となります。

(2) 教育活動外収支

主な収入は受取利息で、一部を長期の債券で運用することにより、前年予算額に比べ1,300万円の増額を見込んでいます。

(3) 特別収支

主な収入は、4号館耐震工事に対する補助金1億5,100万円が計上されています。これまでも耐震工事に伴う補助金を有効的に活用してきました。

この結果、予備費を除外した経常収支差額と特別収支差額を合わせた基本金組入前当年度収支差額は、1億9,900万円の支出超過となります。また、4号館リニューアル費用や2号館空調、講堂改修費などの基本金組入額16億7,100万円を控除した当年度収支差額は18億7,000万円の支出超過になり、これに前年度繰越収支差額を加えた翌年度繰越収支差額は56億8,000万円の支出超過となる見込です。

2. 資金収支予算

資金収支予算は、資金全体の出入りを示したものです。主な収入項目は、納付金収入や補助金収入の他に、有価証券の償還額を計上する資産売却収入、前受金収入などで構成されています。収入合計は131億2,900万円となり、前年予算額に比べて1億6,000万円の減少となります。また、支出項目は人件費、教育研究経費、施設関係や設備支出の他に、資産運用支出として新たな債券購入額10億円を加えたものなどが計上されています。

以上の結果、予備費5億円を全額使用した場合には、翌年度繰越支払資金は27億5,600万円となり、前年予算額に比べて18億6,000万円減少します。